

平成20年9月の解説（週間天気予報）

【9月の天候状況】

上旬の初めは低気圧の影響により所々で大雨になりましたが、中頃から高気圧に覆われて晴れの日が多くなりました。中旬の前半は台風第13号の影響で沖縄地方では暴風や大雨となりましたが、その他の地方は晴れの日が多くなりました。後半は台風第13号や前線の影響で東・西日本の太平洋側では大雨となった所がありました。下旬は北日本から西日本にかけては低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く、中頃から北日本を中心に寒気が南下しました。九州から沖縄地方では後半に台風第15号や前線の影響で暴風や大雨になりました。

月を通しての日照時間は平年に比べて北日本ではかなり多く、南西諸島ではかなり少なくなりました。降水量は北日本ではかなり少なく、九州南部から沖縄地方ではかなり多くなりました。気温は全国的に平年より高くなりました。

【9月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年（注）より4ポイント高い68%でした。例年と比べて九州地方では11ポイント低いほかは全国的に5ポイント前後高くなり、特に北海道では15ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は九州南部地方では0.6 例年より大きくなりましたが、東北、関東甲信、北陸地方では0.5 から0.6 例年より小さくなり、全国平均では例年より0.1 小さい2.3 でした。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は例年と比べて東北、関東甲信、九州南部地方では0.5 から0.6 小さくなり、全国平均では例年より0.2 小さい1.8 でした。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【9月の週間天気予報から】

関東地方では、9月18日から22日まで、止み間はあったものの5日連続で雨が降りました。

台風第13号や前線による18日から20日までの雨は5日前から概ね予報することができましたが、21日から22日に前線上の低気圧の影響で降った雨はうまく予想できませんでした。

図1は9月21日と22日の地上天気図、図2は17日発表の予報で使用した予想図です。

9月17日に発表した東京地方の予報は、20日までは台風第13号と前線の影響で雨、21日は気圧の谷の影響で雨、22日は北に偏った高気圧からの湿った気流の影響があるものの広い範囲で雨が降ることはないと考え、曇としました。

実際は、台風の雨は予報どおり20日の早朝に止んで日中は晴れたのですが、西日本で発

生した前線上の低気圧が関東地方の南海上を通過したため、21 日の昼頃から雨が降りだし、22 日午後まで雨が残りました。17 日発表の予報では、この低気圧の発生を予想できませんでした。この雨を予報できたのは、2 日前に発表した予報からでした。

週間天気予報では、実際の天気を左右する前線の位置や、低気圧の発生時期・進路を何日も前から正確に予想することは難しく、その結果日々の天気予報をはずしてしまうことがあります。最新の予報で確認していただくようにお願いします。

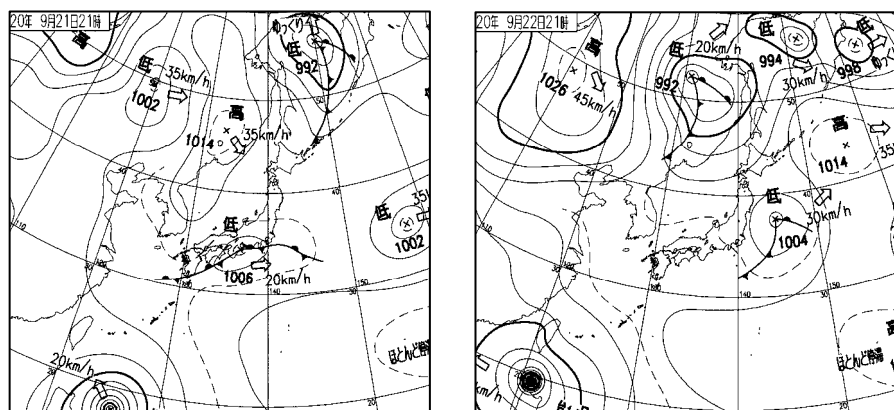


図1 2008年9月21日21時(左)、22日21時(右)の地上天気

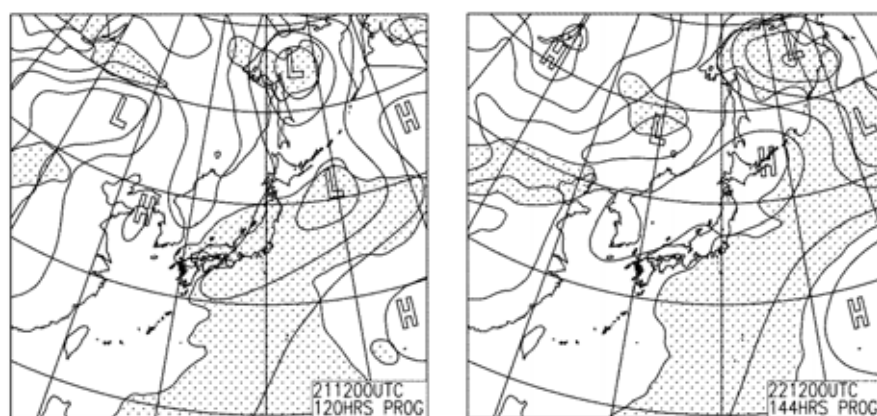


図2 2008年9月17日の予報で使った9月21日21時(左)、22日21時(右)の地上天気図

【11月の週間天気予報の利用にあたって】

11月になると北日本や日本海側の地方では、雨に替わって雪が降ることが多くなります。10月に雪が降るのは北日本や標高の高い地域に限られますが11月には、東日本や西日本の日本海側の地方でも雪が降るようになります。雪が積もった日数も11月から増えはじめます。例年11月には札幌では1か月で14日ほど雪が降り、9日ほどは積雪があります。また、本州の日本海側の平地でも数日は雪が降って1日程度は積雪になります。

雪が降れば視界が悪くなり、積もれば路面が滑りやすくなるなど、雪は雨に比べて降水量が少なくても交通に大きな障害となる場合があります。週間天気予報で雪が降る予報が出ている場合には、前もって雪への備えをしましょう。